

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター	
施 設 名	兵庫県立芸術文化センター	
助 成 対 象 活 動 名	ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	54,913	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図 (概念図)

(事業名)

ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクト

ひょうご舞台芸術魅力拡充事業

(平成31年～令和2年度)

開館からのにぎわいの安定・継続
と新たなチャレンジ

にぎわい続ける劇場であり続ける
(安定・継続)とともに、新たなチャレンジ
により県民生活の質的向上



ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクト

(令和2年～令和7年)

開館20周年に向けた「新たなステージ」の取組

- ・コロナ禍での舞台芸術の継続の模索
⇒劇場空間での鑑賞による感動の提供・人のつながり
- ・開館20周年に向けたにぎわいの安定・継続(プロデュース力とフロンティア力)
⇒飽きさせない新しさの提供「人生を通じて楽しめる劇場空間の創出」

国際水準の創造発信

本格的創造公演による楽しさを感じる劇場
他では観られない楽しさ、醍醐味、新しい発見
わくわく感の醸成

(芸術監督プロデュースオペラ(国際水準))

(普及系プロデュースオペラ(中ホール))

(CuttingEdgeKYOGEN(演劇的古典芸能))

アウトカム

- ・トップレベルの劇場として実績継続
- ・我が国の実演芸術の国際プレゼンスに貢献
- ・県民生活の質的向上、芸術文化を通じた地域創生推進
- ・地域拠点劇場として、にぎわいづくりの核となる
- ・芸術文化を通じ、心の豊かさを実感できる社会の実現

人材養成

次世代の担い手育成とまちのにぎわいを作る劇場
アートマネジメント、舞台技術の継承と地域創生

・管弦楽団アカデミー要素の発揮、アンサンブル力強化
市町文化施設スタッフのスキルアップ、連携強化
(シーズン・オープニング・フェスティバル)

(小学校・特別支援学校へのアウトリーチ)

・大学(芸術文化観光専門職大学)等との連携

劇場での実務体験受入、大学での講義実施

・地域の人材・組織の活用・支援

(普及系プロデュースオペラ(中ホール))

アウトカム

- ・人材を育て、世界に発信するアカデミー機能の充実
- ・実演芸術における専門的人材育成

舞台芸術の普及

親近感と期待感を感じる劇場

舞台芸術のわかりやすい紹介

子どもたち(次世代)へのアプローチによる拡がり

・子どもたち(次世代)へ
子どもの日コンサート
バックステージツアー

・レクチャー事業(ハイライトコンサート、プレレクチャー)

・特色あるシリーズ企画

(世界音楽図鑑、クリスマスジャズ、ステップシリーズ)

・低料金で親しみやすい良質な公演(ワコイン・コンサート)

アウトカム

- ・劇場を核としたまちのにぎわいの創出
- ・地域の拠点劇場として文化振興の核となる

ネットワーク形成

ネットワークのハブとしての魅力創造を発揮する劇場
情報・人材の交流、公演の連携

・県内外ホール・芸術文化団体とネットワーク事業、民俗芸能祭

(県内市町連携:ハイライト・コンサート、シーズン・オープニング・フェス)

(関西劇場、芸術団体連携:普及系プロデュースオペラ)

(全国劇場:共同制作オペラ、音楽・演劇公演の提携)

・人材育成事業

(長期研修受入(学生・劇場関係者)、大学との連携)

アウトカム

- ・地域拠点劇場として、にぎわいづくりの核となる
- ・次世代人材育成

withコロナ、afterコロナ



感染症や建築等の専門家の監修を受けながら感染拡大予防がイラインに基づく公演等の実施。安心・安全・快適な公演環境(鑑賞者・出演者・スタッフにとって)モデルの再構築・提示
感染拡大防止・感染リスクの軽減、インターネット配信等

(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	佐渡裕芸術監督プロ デュースオペラ 「メリー・ウィドウ」	7月16日(金)～25日(日)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術文化センター芸術監督) [ソプラノ] 高野百合絵、並河寿美 [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団	目標値	11,945
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール		実績値	11,122 ※①
2	佐渡裕芸術監督プロ デュースオペラ 「メリー・ウィドウ」ハイライトコンサート～ええとこどり!	4月14日(水)、15日(木)、 17日(土)18日(日)、10月 15日(金)、24日(金)※	[ソプラノ] 北野智子、端山梨奈 [構成・ステージング] 橋本恵史 [舞台監督] 芸術文化センタースタッフ	目標値	1,360
		兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール、 稲美町立文化会館3ホール、 小野市うるおい交流館エコーホール、 丹波篠山市立田園交響ホール		実績値	2,087
3	佐渡裕芸術監督プロ デュースオペラ 「メリー・ウィドウ」ワンコイン・プレレクチャー	5月26日(水) 6月24日(木)	[1回] 講師：中村敬一(演出家) ゲスト：高野百合絵(ハンナ役) [2回] 講師：小宮正安(ヨーロッパ文化史家)	目標値	1,360
		兵庫県立芸術文化センター阪急 中ホール		実績値	2,008
4	Cutting Edge KYOGEN	7月31日(土)	[出演者] 茂山千五郎、茂山千之丞_他 [制作] 芸術文化センタースタッフ [作・演出] 新作狂言(作 茂山童司)	目標値	1,260
		兵庫県立芸術文化センター阪急 中ホール		実績値	688 ※②
5	オペラプロジェクト 2022 歌劇「夕鶴」	3月20日(日)～21日(月・祝)	[指揮] 栗辻 聡 [出演者] 石橋栄実、老田裕子_他 [管弦楽] ザ・カレッジ・オペラハウス管弦	目標値	1,000
		兵庫県立芸術文化センター阪急 中ホール		実績値	1,240
6	兵庫芸術文化センター 管弦楽団シーズン・オープニング・フェスティバル	9月7日(火)～11日(土)	[指揮・芸術監督] 佐渡 裕 [スペシャル・ゲスト・プレイヤー] 豊嶋泰嗣_他 *緊急事態宣言発令に伴い、無観客コンサート	目標値	755
		兵庫県立芸術文化センター阪急 中ホール		実績値	0 ※③
7	兵庫芸術文化センター 管弦楽団小学校・ 特別支援学校へのアウトリーチ	6月4日・7日・8日 11月15日、12月6日・7日	[出演者] 芸術文化センター管弦楽団有志 [内容] 小学校と特別支援学校向けに特 化したアウトリーチ(訪問演奏)。お話を交えた アンサンブルコンサート	目標値	700
		県内小学校・特別神学校		実績値	914
8	ひょうごの民俗芸能 祭「五国のまつりと 城めぐり」	11月6日(土)	[出演者] 総合プロデューサー：田辺真人 ・摂津、丹波、但馬、播磨、淡路(五国)から 出演者	目標値	650
		兵庫県立芸術文化センター阪急 中ホール		実績値	372 ※②
9	宮川彬良&アンサン ブル・ベガ こども の日スペシャル♪	5月5日(水・祝)	※新型コロナウイルス感染症の影響で公 演中止	目標値	1,195
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール		実績値	0※③

10	世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ 2021	9月23日(木・祝)・25日(土)、10月2日(土)・5日(火)、11月21日(日) ※	[概要]世界各地の民族音楽やパフォーマンスを紹介する人気シリーズ。鑑賞公演にとどまらずワークショップ等も実施。	目標値	3,555
		兵庫県立芸術文化センター各ホール		実績値	2,529 ※④
11	クリスマス・ジャズ・フェスティバル 2021	12月5日(日)・11日(土)・17日(金)・21日(火)・25日(土)	[概要] 毎年12月にHyogoクリスマス・ジャズ・フェスティバルとして、日本を代表するジャズ奏者、海外の気鋭奏者による演奏会を実施。	目標値	4,775
		兵庫県立芸術文化センター各ホール		実績値	5,132
12	ステップシリーズ Hyogoクリスマス・ジャズ・フェスティバル 2021「オールスター・ジャムセッション!特別版」	12月15日(水)	[概要]ステップシリーズは、“初めて聴くなら一流を” をコンセプトに若年層を中心としたファン拡大に資する入門的な公演を実施。	目標値	1,635
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール		実績値	1,222 ※②
13	河村尚子 シューベルト・プロジェクト ～ピアノ・リサイタル～	3月12日(土)	[出演者]河村尚子(兵庫県西宮市出身) [プログラム]ホル・シューベルト・プログラム	目標値	360
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール		実績値	407
14	ワンコイン・コンサート	4月13日(火)、5月14日(金)、6月22日(火)、8月6日(金)、9月24日(金)、10月19日(火)、11月5日(金)、12月1日(水)、1月5日(水)、2月25日(金)、3月26日(土)	[概要]ワンコイン(500円)と低価格で、公演時間は正午前後の1時間、関西ゆかりの若手演奏家による演奏。	目標値	15,400
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール		実績値	14,682 ※②
15	ワンコイン・コンサート No.1アーティスト 2020	3月4日(金)	[出演]大谷雄一(元大阪交響楽団首席) 前年度のワンコイン・コンサートで最も反響が大きかったアーティストによる公演	目標値	360
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール		実績値	409
16	なるほどバックステージツアー2021	5月19日(水)、8月13日(金)、9月29日(水)・30日(木)、10月21日(木)、12月8日(水)、1月18日(火)	[概要]照明や音響の設備操作ができる体験型の企画。劇場来訪への敷居を低くし、親しみと興味を醸成。	目標値	800
		兵庫県立芸術文化センター各ホール		実績値	516※②

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>兵庫県立芸術文化センターは、阪神・淡路大震災からの『心の復興・文化の復興』のシンボルとして設置。劇場に来館し、舞台芸術という非日常を楽しみ、気持ちを新たに日常生活を楽しむ『舞台芸術を通じて人とまちを元気にする』ことをミッションとし、</p> <p>①コロナ禍での舞台芸術の継続の模索（劇場空間での鑑賞による感動の提供・人とのつながり）</p> <p>②開館20周年に向けたにぎわいの安定・継続（人生を通じて楽しめる劇場空間の創出）</p> <p>を掲げ、地域の特性・ニーズと芸術文化センターの強みを十分に生かした、ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクトを実施。</p> <p>(1)年間主催公演数 263公演（中止51公演）（目標300公演）(2)年間ホール稼働日数 289日（目標300日）</p> <p>(3)年間公演入場者数28万人（目標50万人）(4)主催公演入場率80.7%（目標88%）(5)主催公演満足度*未実施（目標95%）</p> <p>感染症対策の徹底（前方席の販売停止、手指消毒、検温等）、事業変更（渡航制限等に伴う出演者変更/世界音楽図鑑）を実施し、公演を継続。目標値に達さない項目もあるが、無観客公演（シーズン・オープニング・フェスティバル）による取組など、コロナであっても劇場が県民の心の拠り所として、劇場を通して人と人との絆をつなぐ事に寄与、にぎわいの安定・継続に寄与。</p> <p>※新型コロナによる影響：※①前方席販売停止※②来館者の心理的外出抑制※③無観客・公演中止※④公演会場（定員）変更</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>専門性のあるホール（施設）、専門性をもった人材（劇場運営、アートマネジメント、舞台技術）によって地域のニーズに応えた事業・ニーズを掘り起こす事業を実施。また、国際レベルを向上する事業を実施し、人材育成（基盤整備：若手出演者への出演機会提供、地元人材活用、他館との連携によるスキルアップ）に努め、下記の各事業の達成状況より助成に値する文化的、社会的、経済的意義が継続して認められる。</p> <p>1. 国際水準の創造公演を通じた世界への発信（文化的意義）</p> <p>「佐渡芸術監督プロジェクト」は、世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、兵庫から世界に向け、国際水準の芸術性を備えた公演を実現し、我が国の実演芸術の国際レベルに貢献。</p> <p>公演鑑賞機会の少ない関西圏域において、質の高い公演を低価格で実現し、ピギナーとリピーターを年々拡充。「普及系プロジェクト（夕鶴）」、「Cutting Edge KYOGEN」と共に、出演者、スタッフと地域人材の積極登用を図り、地域人材の育成、地域経済へ貢献。複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮しながら実施。関連イベント（プレクチャー、県内各地で実施のハイライトコンサート等）も合わせてプロジェクトとして展開し、まちのにぎわいを創出。</p> <p>2. 人材養成事業を通じた地域や世界への貢献（社会的意義）</p> <ul style="list-style-type: none">・専属管弦楽団（通称：PAC）の設置は持続的な創造活動を支える柱であるとともに、アガミ機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際レベル向上を発揮。県内各地域で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、地域の音楽文化の熟成と地域のにぎわい作りに寄与するもとともに、県内文化施設スタッフのスキルアップに貢献。令和3年度は緊急事態宣言発出によりアトリーチ活動等は中止となったが無観客公演（市ケーブルテレビ収録・放送）で対応。「小学校・特別支援学校アトリーチ」を実施し実演芸術の魅力を届けていく活動を展開。 <p>3. 普及事業を通じた地域のにぎわいづくり（経済的意義）、経済波及効果、住みたい街ランキング</p> <ul style="list-style-type: none">・世界各地の音楽をシリーズで紹介「世界音楽図鑑」、兵庫県ゆかりの演目や人材を古典芸能で取り上げ、地域の魅力を再発見する「ひょうごの民俗芸能祭」など特色あるライナップの提供で、県民の幅広い期待に応えた。・低価格で親しみやすい事業（ワンコインコンサート等）を実施し、広範囲な観客を招き、舞台芸術ファン裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図った。また、コンサート終了後には多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し、消費活動を活発化させるなど、経済波及効果に大きく貢献。（経済波及効果：県内70億円/年間継続、関西住みたい街ランキング6年連続1位）

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

令和3年度は新型コロナウイルスの影響もあったが、複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮しながら公演実施を継続し、概ね『コロナ禍での舞台芸術の継続』『開館20周年に向けたにぎわいの安定・継続』の目標を達成。コロナ禍においても県民が劇場での舞台芸術に接する機会を積極的に提供。以下の事業遂行の結果(アウトプット)により事業成果(アウトカム)が発現していることが認められる。

- ・世界水準の芸術監督プロデュースをはじめとする多彩な舞台芸術を、多くのファンに支えられながら、高い運営実績を継続
- ・地域における『質の高い』創造芸術の発信を継続(創造性、企画力が高く特色ある実演芸術の継続発信)
- ・親しみやすい良質な公演など『幅広いニーズ』に応える公演を継続発信(子どもたち(次世代)へのアプローチなど裾野拡大)
- ・専属管弦楽団運営やアーティスト研修、若手演奏家の登用など優秀な人材を継続的に養成
- ・県内劇場とのネットワーク、県外劇場と連携、地域舞台芸術団体への支援を継続的に実施

a トップレベルとしての実績の継続(芸術とつながる)

⇒芸術文化センターが発信するソフトへの支持・信頼・ブランドの確立、我が国の実演芸術の水準向上と県民の鑑賞機会の拡大

【指標】高い運営実績 年間主催公演数(R3:263)、年間ホール稼働日数(R3:289日) 高い集客力 年間公演入場数(R3:28万人)

多彩な集客力 熱心な支持層の形成(10回以上のリピート率)(目標60%)、新しいファンの発掘(初めて来場者率)(目標8%)

令和3年度はアンケート調査未実施の為「兵庫県立芸術文化センターにかかる県民意識調査」を参考。コロナ禍の影響について「コロナ禍のため劇場に行っていない」との回答が41.1%と大きく、「回数が減った」(7.1%)を加えると半数近くとなる。「コロナ禍が収束したら、劇場に行きたい」とする回答(19.8%)より、コロナによって来場を控えているが(年間公演入場者数の減)、コロナ収束後、直ちに来場につながるかは不明。

県外観客比率(R3:43.3%)(目標45%)

b 県民生活の質的向上、芸術文化を通じた地域創生の推進(地域社会とつながる)

【指標】街のイメージ向上、関西住んでみたい街ランキング2021_6年連続1位「西宮北口」

兵庫県民意識調査「兵庫の豊かさ指標」(阪神南地域)、「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」(R3:69.1%)

「お住いの市・町では、芸術文化に接する機会があると思う人の割合」(R3:45%)

c 劇場を核としたまちなぎわいの創出(地域社会とつながる)

⇒劇場運営による経済波及効果及び地域経済活性化の促進(経済波及効果(H27))_県内71億円、全国149億円)

【指標】にぎわい創出 イベント実績数・参加者数(R3:614回、28万人)(目標700回・50万人)

経済波及効果 生産誘発効果、劇場周辺商業動向 10周年(H27)高水準を維持⇒開館20周年(R7)に次回調査予定

d 世界に人材を育て発信するアガミ機能の充実(人と人とのつながり)

⇒実演芸術におけるスペシャリストの育成、兵庫から世界に向けて優秀な人材を発信(管弦楽団卒団生の他オーケストラ入団)

【指標】専属管弦楽団メンバー 卒団者数(21か国78楽団(国内26楽団)128人)(R7迄目標154人)

若手演奏家活動実績*ワコインコンサート出演者の中からセンター主催事業への出演数(R3:11人)(目標8人)

e すべての県民が芸術文化を通じ、心の豊かさを実感できる社会の実現(地域・世代を超えたつながり)

⇒お客様の裾野をさらに広げ、一層の劇場のにぎわいづくりを進化

【指標】初めての鑑賞者継続拡大(初めて来場者率)(R3:アンケート未実施)(目標8%)

f 地域の拠点劇場として地域文化振興の核となる(地域社会とのつながり)

⇒芸術文化を通じたにぎわいづくりを全県に伝播し、文化振興の核となる(県内展開実績)

【指標】管弦楽団(PAC)県内施設・団体との連携公演(R3:7公演、目標5)、県外劇場・団体との連携数(R3:9公演)

g 感染予防対策の周知徹底⇒感染拡大防止、リスク軽減【指標】R3_職員・委託業者等研修実施2回・参加者70名

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

年間を通して、助成対象事業を定期的実施するよう設定しており、緊急事態宣言発令により1事業（事業番号9「宮川彬良&アンソブル・ベガ こどもの日スペシャル」）中止となったが、全16事業中15事業は、複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮し公演を実施。新型コロナ感染症拡大により渡航制限に伴う出演者変更等の事業変更を適宜行い、公演実施を継続し、おおむね期間内に実施・完了するなど、事業期間の設定は適切だった。

①事業番号2「ハイライトコンサート」は公演中止1公演（洲本市）、日程変更2公演（小野市、丹波篠山市）、公演先変更

1公演（三田市公演中止に伴い、センター公演を2公演から3公演に変更）新型コロナ感染症拡大によるやむを得ない公演中止もあったが、公演実施市町（小野市、丹波篠山市）と協議して、5月から10月へ日程変更して公演を実施。また、三田市中止分の公演をセンター公演として実施し、関西在住の若手ポップ歌手に出演機会の確保に貢献。

②事業番号6「管弦楽団シーズン・オープニング・フェスティバル」、スペシャルゲスト・プレイヤーの変更、事業内容変更

新型コロナ感染拡大に伴う渡航制限によるスペシャル・ゲスト・プレイヤーを10人中8人変更し、事業実施に尽力したが、緊急事態宣言発令に伴う養父市（実施会場、共催先）より集客を伴う公演中止の方針が決定した為、アクトリチ等を中止し、無観客コンサート実施（地元ケーブルテレビによる収録・放送）。養父市での事業実施は令和4年度で調整。

③事業番号10「世界音楽図鑑」は6事業6公演のうち出演者を変更して5事業5公演実施。

世界音楽を紹介する人気シリーズだが、新型コロナ感染拡大に伴う渡航制限によって出演者（団体）を国内より適宜選定し公演を実施し、県民への鑑賞機会の提供に努め、コロナ禍にあっても劇場が県民の心の拠り所として、劇場を通して人と人との絆をつなぐ事に寄与。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

新型コロナ飛沫感染防止を図る距離の確保の為、前方席の販売を停止（大ホールポップ232席、大ホール72席、中ホール54席、小ホール32席）、また緊急事態宣言発令により1事業（事業番号9「宮川彬良&アンソブル・ベガ こどもの日スペシャル」）中止となるなど、厳しい状況であったが、券売努力による入場料収入の増、助成金の獲得等によって当初より収入は増加し、公演中止、また事業変更の結果支出は減少した。予算と決算の差は、収入・支出いずれも10%以下であり、事業費は適切であり、当初の計画通り進んでいる。

【令和3年度】

当初予算（収入）：170,267千円

決算決算（収入）：176,291千円

収支予算との差は3.5%増であり事業費は適切で当初の計画通り進んでいる。

当初予算（支出）：309,997千円

決算決算（支出）：280,254千円

収支予算との差は9.6%減であり事業費は適切で当初の計画通り進んでいる。

※新たな助成金（J-Lodlive2_60,688千円*実績報告時の見込値）獲得努力の結果、対象経費の減（支出減）につながった。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

芸術文化センターは「劇場はみんなの広場」として人々が元気で輝き続ける劇場であり続けることが出来るよう、開館以来、まちのにぎわいを創出するとともに、県内ホールとのネットワークによる活動展開を図りながら、県民生活の質的向上・社会的課題解決・地域創生の一翼を担っている。

当センターは、独創性、新規性、先導性に優れた事業を実施する為に、芸術監督等の舞台芸術経営のプロフェッショナルを配置し（芸術監督：佐渡裕（指揮者）、運営責任者：山下副館長（行政）、舞台技術陣）、佐渡監督のからの様々な提案等を、公の施設として副館長が適正にマネジメントし、職員はじめ専門劇場の舞台技術陣と調整し、現場と直結した迅速な意思決定、即断即決解決型の体制を特色としている。

当センターの事業計画の中で代表的な事業である佐渡裕芸術監督企画によるプロデュース公演は、毎年、世界水準の公演を全国的に稀有なプログラム上演（8公演）する取組み。令和3年度は芸術監督自ら「このような状況（コロナ禍）だからこそ、歌が大事」という明確な方向性を劇場スタッフに提示・共有し、2年ぶりとなるプロデュース公演喜歌劇「メロウイドウ」を実施。コロナ禍における大規模自主制作公演として万全の感染防止対策を講じ全国に先駆け実施（先導性）。国際水準の公演とするため国内選りすぐりの精鋭リスト、専属楽団のPACオーケストラによってセンターのソフトとハードを最大限に発揮し、関西の笑いや宝塚歌劇の要素を取り入れた華やかな舞台を制作（新規性）。また、本公演を核とした地域の一大イベントとして事業を展開（独創性）。各地域での公演鑑賞ファンの広がり、継続した公演要望に応じて、本公演実施前に、①ハイライトコンサート：県内4市町にて実施、②プロレクチャー：専門家の講師による上演鑑賞に役立つ予備知識を紹介することで舞台鑑賞力向上に貢献、③館内の展示コーナー「ホック」（無料鑑賞スペース）で、関連資料・写真を展示し、初めて鑑賞する方々にも、より解りやすく親しみやすい内容とし、公演を盛り上げる、④公開リハーサル：最終総稽古（ゲネプロ）を、お客様役で公演舞台の制作過程を共有体験する機会を提供、⑤公演前夜祭イベント：公演初日の前日、芸術文化センター前の高松公園にて、地元商店街等『西北活性化協議会』や地元学生等との共同企画により実施し、街全体で公演を盛り上げ、より多くの住民が気軽に公演に親しむ機会を提供し、地域の魅力アップ、まちのにぎわい作りに貢献している。

さらに、事業の独創性、新規性の大きな特色が、創造集団としての専属管弦楽団である。芸術的責任と権限を有する「芸術監督」の下、公演での演奏、県内劇場とのネットワーク形成（県内外での公演）、小学校・特別支援学校アトリーチ活動、シーズン・オープニング・フェスティバル（市町ホールでのアトリーチ、公演）などのパブリックアターにふさわしい多彩な活動を展開し、地域における音楽文化の発展に寄与している。

また上記以外の独創性の高い事業として、「ワコイン・コンサート」とその後引き続く「ワコイン・コンサートNo.1」、「なるほどバックステージツアー」をはじめとする劇場への来訪への敷居を低くする普及啓発公演（低料金で親しみやすい良質な公演）、当センターへの複数回来訪を促す「世界音楽図鑑ワールド・ミュージック・シリーズ」、「クリスマス・ジャズ・フェスティバル」、「ステップシリーズ」、「宮川彬良こどもの日コンサート」の特色ある人気シリーズ企画を展開している。

コロナ禍においても、感染予防を徹底しながら、舞台芸術の継続を模索し、公演を継続実施。親近感と期待感を感じる劇場として、また、子どもたち（次世代）へのアプローチにより、広範囲な集客を招いている。演奏会終了後には、多数の来場者が当センター周辺の商業施設を回遊し、飲食や物品サービスの購入等により消費活動を活性化させるなど、地域のにぎわいづくり、経済波及効果にも大きく貢献している。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

国内外での評価 ～栄誉ある評価～【主な受賞】

- ・関西元気文化圏ニューパワー賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H19. 1. 11 関西元気文化圏推進協議会]
- ・関西元気文化圏賞特別賞 [H23. 1. 20 関西元気文化圏推進協議会]
- ・地域創造大賞（総務大臣賞） [H23. 1. 21（財）地域創造]
- ・神戸新聞平和賞「佐渡裕と兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H23. 5. 3（株）神戸新聞社]
- ・関西元気文化圏賞 10周年記念特別賞「佐渡芸術監督」[H25. 1. 22 関西元気文化圏推進協議会]
- ・ミュージック・ペンクラブ音楽賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H29. 4. 24 ミュージック・ペンクラブ・ジャパン]

【海外からの評価】

・2012年芸術監督プロデュースオペラ「トスカ」で、芸術文化センターが制作したプロダクション（演出、舞台装置、衣装、照明、映像）により、トリノ王立歌劇場で、2016年2月から10公演上演され、ボローニャ劇場で2017年12月8公演上演された。国内制作されたオペラプロダクションが海外、中でもヨーロッパ有数の名門歌劇場の本公演として上演されることは極めて稀で（日本オペラ史上初）芸術文化センター制作のオペラ水準の高さ（国際レベル）を示すとともに、海外の実演芸術団体とのつながりを、より一層向上。

1. 世界に向け発信する国際水準の創造公演

- ・佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラ
（華やかな恋物語 関西の彩り 2021. 8. 23_読売新聞）
（不安や憂いも吹き飛ばす、ベル・リッパ期のパリの喧騒を表現_音楽の友 9月号）
（公演 Review_モーストリークラシック 10月号）

2. 地域や世界に向けた人材養成

- ・創造集団である楽団の設置・運営は、芸術文化センターが掲げるミッション遂行のための強みであり、持続的な創造活動アカデミー機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際プレゼンス向上に貢献。
- ・県内各地域で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、演奏会の他にも芸術監督による地元中学生への公開ブラスクリニック、楽団アウトリーチ、公開リハーサルの実施等の地元住民との交流を通じて、地域の音楽文化熟成とにぎわいづくり、県内市町村文化施設スタッフのスキルアップに貢献。
（劇場と竹が一体、地元で愛されているのが分かる」2017. 10. 7_神戸新聞）
（唯一無二の楽団「PAC」2021. 9. 16_産経新聞）

3. 地域との連携

- ・芸術文化センターを核とした地元商店街等による「西北活性化協議会」を設立し、地域と連携した様々なイベントを実施。コロナ禍での劇場について。
（「復興の象徴」は 2015. 8. 21_朝日新聞）
（「文化復興 兵庫がシンボル」2020. 1. 6_読売新聞）
（「激変で見えた音楽の本質とは」2021. 4. 10_神戸新聞夕刊）

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

阪神・淡路大震災からの創造的復興、文化復興のシンボルとしてこれまでの運営で蓄積してきた施設の強みや特色を発揮し、設置者である兵庫県と連携し安定した運営基盤の確保を図り、地域特性やニーズへの対応を前進させ、事業計画を通じて“兵庫県芸術文化振興ビジョンの実現”“芸術文化立県ひょうご”に向けた歩みを進めている。

「組織」「資金」「ネットワーク」の中長期的安定・維持の為に次の仕組みで運営。

- ・多彩で魅力ある舞台芸術の創造発信とともに、安全・安心・快適な劇場空間、適正で効率的な劇場運営を支える体制を構築
- ・優秀な人材の確保・育成（継続雇用）を図りながら、円滑な世代交代を実施。有期雇用者の中からプロパターに選拔し、正規雇用率の引き上げを実施（H17_7割→R3_6割→R8_7割）。
- ・県費（指定管理料、補助金）をベースに経営効率を高めるとともに、ファンの期待に応える、メニューの充実、舞台のグレードアップ、公演数拡大、ネーミングライツ、賛助会員（地元企業の応援）の獲得・継続努力、各種公演ごとに協賛金、民間助成金の獲得・継続努力を実施。
- ・オペラハイライトコンサート、楽団シーズン・オープニング・フェスティバルを県内施設で実施し、芸術文化センタースタッフによるステージマネジメントの支援や様々な角度での交流を行い、市町文化施設職員のスキルアップに貢献。また、他の文化施設からの研修生受け入れを実施。
- ・委託業者とのミーティング（週1回）、経営会議（月2回）等による部門間の総合調整、運営委員会（年1回）に中長期的方針を決定。安定した事業実施の為に、施設・設備の適正なメンテナンス・改修計画を策定、実施。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

事業成果（アウトカム）「芸術とつながる、地域社会とつながる、人と人とのつながり、地域・世代を超えたつながり」を設定し、事業成果（アウトカム）を達成する為の事業を①国際水準の創造発信（質）、②人材養成（人）、③舞台芸術の普及（ひろがり）、④ネットワークの形成（連携）、⑤全体に共通する視点として感染症対策（withコロナ、afterコロナ）の視点から設定。

各事業を遂行することで求められる事業遂行の結果（アウトプット）「高い運営実績の継続、質の高い創造芸術の発信継続、幅広いニーズに応える公演を継続発信、優秀な人材を継続養成、県内外劇場とのネットワーク強化、地域舞台芸術団体の連携・支援、大学等との連携、感染予防対策の徹底、地域人材・組織の活用・支援」を設定し、事業成果（アウトカム）を導くための目標を設定。

新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、事業変更を余儀なくされつつ、事業は期間・予算共に適切に実施し、目標を達成していることにより、事業成果（アウトカム）の発現・定着についても期待できる。